

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第1回西東京市生きる支援推進計画策定検討会議
開催日時	令和5年5月29日（月） 午後1時から2時
開催場所	田無イングビル3階 会議室
出席者	座長、副座長、C委員、D委員、E委員、F委員、G委員、H委員、I委員、J委員、K委員、L委員
議 題	(1) 計画策定スケジュールについて (2) 国や都における自殺対策の近年の動向と当市の現状について (3) 当市の「生きる支援推進計画」の方向性について (4) アンケート内容について (5) その他
会議資料の名称	資料1 自殺総合対策大綱 資料2 東京都自殺総合対策計画～こころといのちのサポートプラン～ 資料3 こころの健康や自殺対策に関するアンケート内容（案） 別紙1 生きる支援推進計画策定検討会議委員一覧 別紙2 西東京市生きる支援推進計画策定検討会議設置要綱 別紙3 西東京市市民参加条例 別紙4 西東京市生きる支援推進計画策定検討会議傍聴要領
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>1 開会 ささえあい・健康づくり担当部長挨拶、資料確認、欠席確認（M委員欠席）</p> <p>2 委嘱状の交付（机上配付）及び自己紹介</p> <p>3 会議の公開と会議録の作成方法について 次の2点について、事務局案が承認された。 ・傍聴要領（原則公開、傍聴の定員など） ・会議録は発言者ごとの要点記録とし、会議録は公開</p> <p>4 座長・副座長の選出 推薦により、座長はA委員、副座長はB委員が選出された。</p> <p>5 議題（1）計画策定スケジュールについて</p> <p>●事務局 （計画策定スケジュールの説明）</p> <p>●座長 計画策定スケジュールにご意見・質問はあるか。 特に無いようなので次の議題に移る。</p>	

## 議題（２）国や都における自殺対策の近年の動向と当市の現状について

### ●事務局

（計画策定の背景と当市の現状について）

### ●座長

事務局の説明について質問・確認事項等はあるか。

### ●C委員

精神科の現場では、自殺者数の少ない高齢者の方も、死にたい気持ちを持っている方はすごく多いと感じる。計画を立てるにあたって、既遂者だけではないことを念頭に置いた方がいいと考える。

### ●副座長

今のご意見は本当にその通りだと思う。一般的なところでだが、高齢者の方には、孤独死といったような状況で、自宅で亡くなっている方も結構ある。そういった自殺以外の統計も見ていく中で総合的な判断をしていくことが大切だと思う。

### ●座長

関連の領域にも目を向けつつ、計画を策定していくべきだという意見が出た。日本がデータを取り始めた時点から女性の自殺は世界的に見ても非常に高い状態である。目先の自殺対策だけでは十分ではないということは、非常に感じている。

## 議題（３） 当市の「生きる支援推進計画」の方向性について

### ●事務局

（現行の計画に基づいて基本施策の説明）

- ・基本施策1つ目：「本市におけるネットワークの強化」
- ・基本施策2つ目：「生きる支援を支える人材の育成」
- ・基本施策3つ目：「市民への自殺予防の啓発と周知」

現行の計画における基本施策以外の関連事業の説明

- ・現行の基本施策3つについては、引き続き取り組みたい。「生きる支援関連施策」として掲げていた項目については、4つ目の「生きることの促進要因への支援」具体的には「対人支援」として、整理したいと考えている。委員の皆様からご意見を頂戴したい。

### ●座長

事務局の説明について、質問意見はあるか。

### ●D委員

これまでの取組に関して実践されたことを整理する中で評価しながら進められると、よりこれからの計画に生きるものになると思った。自殺対策以外のところでも自立支援の申請が増えていると行政の方からお聞きする。生活上での困難さが、コロナが5類に移行すると出

てくる問題もあると思うので、それ以外の相談内容が参考になるのではないか。

#### ●F委員

地域包括支援センターは、関わっているケースの方は比較的风险を見つけやすいが、つながりが非常に弱い方や、世代として対象にならず、どこの制度にも掛かりにくい谷間の方々へ、どうアウトリーチするか、専門的なところにつながりにくい方にかに届けるかというところに力を入れていける計画になったらよいと感じている。

#### ●G委員

私たちのところでは、8050 問題の相談が多い。お子さん自身は助けが必要と感じていないかもしれないし、本音を出せないのかもしれない。関われる機関がなくどこと連携したらよいのか、自分たちには何ができるかという話が出ていた。支援が届かない人たちにどうやったら届くかということが課題になっている。

#### ●E委員

行政が行う事業だけでは自殺を防ぐことは難しいと感じている。民間団体や、職場でのストレスチェック等からうまくハイリスクの方がつながれるような仕組みづくりを行政主体でつくっていくと、効果を発揮できるのではないか。

#### ●K委員

E委員の意見に賛成である。身近で悩んでいる、困っているという方のお話を聞いてあげるなど、人と人とのつながりを、コロナで分断されてしまったところを、行政が取り戻すことができるとうい。人と人とのつながりの中で些細なことを解決すると、落ち込むところまでいかないよう防ぐことができると思う。

#### ●座長

まとめていくと、まず、事業評価が重要で、計画に則った事業の評価がどうなっているかというご意見を頂戴した。今後コロナが5類へ移行してからの問題が発生してくるのではないかとこのところにも注意をしつつ、策定に活かしていくことが重要だということであった。私からも追加させていただくと、有事の時の自殺は減少し、多くが、その後に自殺率が上昇してくるものなので、今後注意深く見守ってモニタリングする必要があると感じた。

制度の狭間にある人にどうアプローチしたらいいか、どこの機関が関われるのかという問題にも焦点をあてていくとうい。行政だけの取り組みには限界があり、民間や企業と連携した仕組みづくりが大切であるということ。その中で、人と人とのつながりが有機的にどう結びついていくのかについても、計画に盛り込んでいくべきだろうとういご意見を頂戴した。

### 議題（4） アンケート内容について

#### ●事務局（資料3を用いて）

計画策定にあたって、市民の方にアンケート調査を実施する。このアンケートは20歳以上の市民の方から5,000人の方を無作為に選び実施するもので、自殺や、自殺対策に対する意識、認知

度を把握し、自殺対策に係る基礎資料とするために実施する。次回の会議では集計結果を報告して、本計画に反映できればと考えている。皆様からご意見いただき、また、計画策定に携わっていただける事業者様とともにアンケート内容を完成させ、実施したい。

●座長

アンケートについてご意見はあるか。

●C委員

うつ病に対するスクリーニングは精神科でもよくやることだが、この中には、例えば、「死にたいと考えたことがありますか」とか、色々入っているが、「あります」という回答だった場合に、対応していくのかどうか事務局に伺いたい。

●座長

11番目の質問項目、「死にたいと考えたことがありますか」に質問に対してのこの後のフォローはどのようにお考えか、事務局から回答お願いしたい。

●事務局

相談窓口の紹介・周知も重要と考えているが、まずは、調査全体として死にたいという方がどれだけ市民の方にいるのかの状況把握が重要と思っている。またそのときにどう相談したか、などの結果を基にどういう取組が必要か、またどういった周知が不足しているのか検討したい。

●C委員

一般市民の方にストレートに聞くことが、割とショッキングなことなのか、それとも聞いても大丈夫なことなのか少し不安になった。皆さんのご意見を聞きたい。

●D委員

自殺対策に関する、というタイトルなら、もしかしたらショックを受けることもあるかもしれない。相談窓口を提示しておくというようなフォローがあると、アンケートにも答えやすい、つなぎやすいということもあるかと思う。自殺をしたいと考えた理由もあるが、自殺を考えているかどうかまで至っていない方もいらっしゃるのではないかと。

●副座長

質問票でK6スクリーニング尺度（短縮版ケスラー抑うつ尺度）を取るが、これでどれくらいの方がストレスを感じているのか把握することにつながると思うが、同時にクロス集計とか統計的な検定を行うことで、より詳細な状態が見えてくる。性別や年代とか家族構成など入れていくと非常に価値のあるアンケートになると思う。どれだけ項目を増やせるか検討していただきたい。

●座長

C委員から意見いただいた、死にたいと考えたことがあるかという質問についての不安は感じる。私もこういった調査をこれまでできてきているが、必ず最後に相談窓口を紹介している。自分のメンタル面が不安定になる危険性も考えられるので、少しでも心配な方はアンケートに答えることを控えるようにという文言が必要かと思う。自殺という言葉が強いようであれば、死にたくなる気持ち、であるとか、そのあたりも工夫していただければと思う。無作為で選ばれる方たちなので、そのあたりは十分に配慮していく必要がある。また、何を明らかにする質問項目なのか明確にする必要がある。

それから、せっかくK6の貴重なデータを取るのだから、属性との関係性であるとかを検証していくといいのではないかということだが、選択項目を作るのかどうかということも伺いたい。選択項目にさせていただいて、その他で、自由記述というところを入れる方が答える方も気楽であるし、あまり自由記述が多くなってくると、非常に回答率も下がってくる。

アンケート等について、委員の皆様から事務局の方にメールなどでお寄せいただくという形でよろしいか。

●事務局

アンケートについては、スケジュールがタイトになっているので、もしご意見あれば今週中にいただけるとありがたい。

●L委員

アンケートについてだが、私の団体でも、死にたくなった時のケア、というものがあって、心理状態を、心配・不安・恐怖・絶望を感じているのか段階分けをして、そのあとにストレス、状況、訴え、そして聞いてほしいのか、助言がほしいのか、保護がほしいのか、今の状況からの離脱がほしいのかを点数化して出すことをしている。

「死にたい」の中に何が含まれるのか、離脱したいのか支援してほしいのか違うので、自殺という言葉を使わずに聞き取りを行っている。もしご参考になればと思う。

●J委員

小学生も中学生も、作文や図工の作品の中に死をイメージさせるようなものがあると、教員たちは心配して保護者に話しをする。そういった子供たちのSOSや、内に秘めているものに、大人が気付く環境が重要だと感じている。

●I委員

人との接触を苦手としている方への対応を考えていかなければならないのかなど、率直に感じた。

●座長

皆様に貴重なご意見をいただいた。事務局から次回の日程の連絡をお願いしたい。

●事務局

次回は8月を予定している。また、決まり次第ご連絡申し上げる。

●座長

これをもって第1回西東京市生きる支援推進計画策定検討会議を閉会する。

閉会